

本日

映画講演集会

1★24(土) A141教室にて 《映画講演集会》
 12:00～ 映画 『韓国労働者の母』 カンパ 200円
 14:30～ 講演 小田実氏 桑原重夫氏

■複雑化する現在の情勢

現在、金大中らを取りまく情勢は、日本帝国主義の意図や全斗煥一味の策動とからみ合い、複雑なものとなっている。韓国外においては、1月20日のアメリカ、レーガン大統領の正式就任、鈴木首相のASEAN諸国歴訪、北朝鮮首相の北京訪問などがあり、何ひとつ見逃すことができない。また、韓国内においては、新政党の成立、KCIAの名称変更、南朝鮮民族解放戦線事件の被告2名に対する死刑判決、言論基本法の成立、大統領選挙法の成立、反共法廃止、光州事件において学生2名を死刑から無期懲役に減刑、2月からの米韓大演習、「ナムスビレット81」の開始、社会悪一掃特別措置による暴力犯などの大量検挙、2月の大統領選前に非常戒厳令を解除するという政府の方針 etc...。短期間にこのような重要なことが展開されている。

■策動する全斗煥軍事独裁政権

これら一連の動きは、今回の大統領選に照準を合わせた国内の「整理」であり、韓国民衆あるいは国際世論の鎮静化をねらったものである。さらには、環太平洋構想を急頭に入れた長期的な「見えにくいファシズム体制」作りと見ることも、さほど飛躍でもないだろう。大統領選に関しては、金大中、金鐘泌などの有力な政治家が政治活動不能の状態にあることや、選挙法も約60%の選挙人団による直接投票という形をとるために民衆の意思が正確に反映せず、全斗煥が選出されることは確実である。また現在、韓国は極度の経済危機は、'80年度経済成長率マイナス0.7%（GDP化）を記録しており、まさに「破産」寸前の状態にある。これに対して

斗煥は、外国資本、技術導入の拡大、賃金の抑制などを掲げているが、これでは対外経済従属の強化にすぎず、またインフレ対策をタナ上げにした貸金所規制は貧困な韓国民衆をさらに搾りあげることによってこの危機をのりこえようとする動きにすぎない。これでは抑制ではなくて、抑圧・搾取強化以外の何物でもない。

■1★24 映画講演集会へ！

このように問題が深刻化している情勢をふまえて、我々は金大中氏らを救出するための相点を確立させ、さらには日本政府にホコ先を向けた闘いを展開するために、2回の連続学習会を行ない、それに引き続いて、1月24日に映画講演集会を提起する。また、教養部正門前にテントを出して情宣活動を行なうと同時に、我々の運動への参加を呼びかけている。

全この皆さんの参加を訴える。

《スケジュール》
 17:15 10 L控室 第1回公開学習会
 22:45 〃 〃 第2回 〃
 24:12 A141 映画講演集会
 31:〃 〃 外務省抗議行動

緊急行動